

カリキュラム

機構施設名： 山口職業能力開発促進センター
実施機関名： 株式会社日本能率協会コンサルティング

(A) バックオフィス	クラウドを活用した情報共有能力の拡充
クラウド・IoT導入	

コースのねらい	部門や拠点間の情報共有・調整コストの軽減をめざして、クラウドの技術概要や活用事例、活用検討にあたってのポイントを理解し、クラウドを活用した自社業務における情報共有の課題解決に繋げるための能力を習得する。
---------	---

	「基本項目」	「主な内容」	訓練時間 (H)
講義内容	1 情報共有方法とクラウドの活用	1.業務における情報共有の必要性 ・業務情報の定義(顧客、営業、社内コミュニケーション等)、業務で使用する情報とは(モデル化等)(講義、洗い出し演習) ・見える化等、情報共有の必要性とその理由(講義) 2.情報共有方法の現状 ・現状の情報共有方法、問題点(演習、グループワーク(GW)1) 3.情報共有ツールの活用 ・媒体別等、情報共有ツールの整理、分類(講義) 4.クラウドを活用した情報共有方法 ・クラウド概要(基本概念・サービス、メリット・デメリット等)(講義) ・情報共有に活用出来るクラウドサービス例(講義)	2.5
	2 クラウドを活用した情報共有能力の拡充	5.情報共有プロセスの分析 ・ビジネスプロセス定義と業務情報を含めた分析、管理等の一般的な分析手法の説明(講義) 6.業務の見える化と課題の洗い出し ・問題と課題の違い、課題管理手法の説明(講義) ・業務の見える化(プロセス定義)と課題の洗い出し(演習) ・課題解決策の検討(演習、GW2) 7.クラウド活用の長所と留意点 ・クラウドを活用した情報共有能力の向上、業務別事例と各事例におけるメリットと留意点(講義) 8.導入に係る課題解決策立案 ・導入計画の立案(解決策の評価と優先順、ステークホルダー分析とコミュニケーション計画等)(講義) ・導入計画検討と導入に向けた課題分析(演習、GW3) 9.振り返り ・研修のゴール達成状況、気づきをグループで共有 ・全体で共有	3.5
合計時間			6.0

カリキュラム作成のポイント
全体として、ワークショップを充実させ、他者の考えなどから一人では思いつかないような新技術適用に向けた気づきを得る事に重点をおく。 【情報共有方法とクラウドの活用】では、講義と演習を通して、“情報”の定義と“情報共有の重要性”を再認識した上で、ソリューションとしてのクラウドの概要を把握し業務への適用をイメージするヒントを掴む事を狙う。 【クラウドを活用した情報共有能力の拡充】においては、可能な限り具体的な業務を対象に、情報を含む“業務プロセス”定義による見える化の重要性を理解し、クラウド活用による情報共有能力の拡充に向けた導入計画を疑似的に検討し、実務に役立てるヒントを掴む事を狙う。

講師から一言
全体として、テーマごとに解説とグループによるディスカッションをセットで実施することで、実践につながる気づきを持ち帰って頂きます。